看護部だより
ひまわり
2020年9月
発行責任者　田口　弥生
VoL.67

ＰＦＭ活動紹介

ＰＦＭ主任　有川

PFMとは、Patient Flow Managementの頭文字をとって、称します。
当院では2017年に組織として発足し、今年で3年目を迎えます。地域連携室隣の図書室に部署を構え、私を含め看護師５名で勤務しております。
PFMの目的は、「入院前に患者情報を把握し、問題解決に向けて早期に着手すると同時に病床管理を合理的に行う」ことです。患者が安心して入院し、患者家族が望む場所へ退院できるように早期の退院支援介入を行うこと、地域・外来・病棟と切れ目のないケアができるよう役割を担っています。
また、入院に係る説明や入院時オリエンテーション、アナムネ聴取などをPFMで行うことで、外来・病棟業務の負担軽減にもつながります。これらの入院支援業務は、多くの病院では予定入院患者に限定していますが、当院では2019年9月より当日・緊急入院患者にも対象を拡大し、予定・予定外入院の区別なく、介入を開始。情報を収集し、早期に退院支援介入ができるようになりました。
今年度は「つながる！つなげる私達！」をスローガンに掲げ、退院支援への連携強化に取り組んでいます。各診療科に担当者を配置し、入院した患者の状態確認や面談を通して退院支援が必要な患者に早期介入できるよう活動しています。その一環として、9月１日から退院調整カンファレンスをPFM主導で行います。自宅での生活状況と退院後の生活イメージをすり合わせながら情報交換と今後の方向性の共通認識が図れるようにすすめていきたいと思います。「この人が望む場所に帰るためにはどうしたらいいのだろう？」を合言葉に各部署・職種連携しながら退院支援をすすめていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします！

循環器・呼吸器担当	： 有川
整形外科	： 神田・森山
外科・消化器内科	： 黒江
脳内・脳外科	： 福嵜

看護協会主催

「重症度、医療、看護必要度評価者研修」院内指導者研修

回復リハビリ病棟　神田

私は、この「重症度、医療、看護必要度評価者研修　院内指導者研修」を受講するのは数度目ですが、とても苦手でこれまでこの研修を受けた人達の中で、他の誰よりもテストを何度も受けていると思います。
しかし、受講するからには、学んだことを他のスタッフへ指導する立場のため、必死に頑張りました。今回は、新型コロナウイルスの影響でオンラインでの研修受講となり、自分のペースで受講し学習することが出来ました。2020年度診療報酬改定に伴い、看護必要度の内容も変わりました。「働き方改革」により、現在、看護記録の簡素化に向けた、計画を遂行中ですが、看護必要度の記録の在り方についても検討が必要と思われます。評価の根拠を含めた記録が必要であるため、正しく評価できるようにスタッフへ周知していきたいと思います。

院内研修

新人研修「苦痛の緩和・安楽確保の技法」を受講して

講師：がん化学療法看護認定看護師・外来主任　濵田　幸蔵

3階東病棟　宮内

入職して5か月が経ち、全人的な苦痛を少しでも緩和すべく、自分には何ができるのかを常に考えるようにしています。自分の行いで本当に患者さんの苦痛を軽減できているのか自信はありませんが、患者さんを受け持ち関わる中で、予期せぬ病気により様々な思いを抱きながら入院されていることを感じ取れるよう、目の前にいる人を入院している〝患者〟としてみるのではなく、ひとりの〝生活者〟として考えるようにしています。そうすることで、世話をしている看護師ではなく、人対人の関わりが出来、私を選んで何かを訴えてくれるのかもしれないと思うからです。苦痛の緩和は難しいですが、たくさんの経験を重ねながら自分にできることをみつけていきたいと思います。

4階西病棟　吉村

苦痛の緩和、安楽確保の技法についての研修を受講し、患者の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な苦痛であるトータルペインについて考え、看護師としてどのように行動していけばよいのか深く考察する良い機会となりました。

まずは患者の話を傾聴し、現在感じている痛みや苦痛の程度、持続時間、経過を知る事や苦痛により日常生活へどのような影響が出ているのか思いを知ることが大切であると改めて分かりました。特に印象的だった事は、スピリチュアルペインに対する対人援助の重要性である。忙しい日々の中、その日の業務に追われる毎日ですが、患者の話に耳を傾けられる看護師になれるよう頑張りたいと思います。

ラダーⅡ「多職種連携パートⅠ」研修を受講して

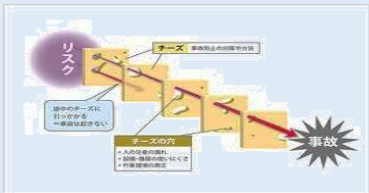
講師：地域連携室副室長　瀬戸口　久美子

チーム医療では、信頼関係が必要です。仕事をしていると多職種の方へ、つい笑顔を忘れていたり、挨拶や声掛けをされてから、振り返っている気がします、患者にとって質の高い医療を提供するため、病棟では、科ごとに専門職が集まり、週１回カンファレンスを行い、情報を共有しています。私たち看護師は、患者の一番近くにいて情報を得られるため、調整役になる必要がある事を念頭におき、今後の仕事に役立てたいと思いました。

4階西病棟　柳川

看護補助者研修「医療安全と感染管理」を受講して

講師：医療安全管理者・副看護部長(認定看護管理者)　長井　砂都美
　　：感染管理認定看護師・手術室主任　長倉　周作



4階東病棟　吉留

今回の研修を受け、医療安全では看護補助者は看護師の指示のもと業務を行い、分からない事は必ず看護師に確認し、患者が安心・安全で快適に過ごすことが出来るように、病室の環境を整えることが転倒などの事故を防ぐことにつながることが分かりました。

感染管理では、病室・ベッド周辺の感染経路の動画を見て、毎日の環境整備の重要さをとても感じました。手袋等、患者さんごとに交換すること、病室の拭き取りの手順・シーツ交換の手順を守って日々の業務に取り組みたいと思います。

ラダーⅢ「倫理」研修を受講して

講師：がん化学療法看護認定看護師・外来主任　濵田　幸蔵

３階東病棟　宝来

今回、看護倫理についての講義を受講しました。日々業務を行う中で、自分や患者それぞれが思い通りにしたい事柄のうち、一方を思い通りにすると一方が必然的に不都合な結果になったりとジレンマが発生します。しかし、私達看護師は、人間としての尊厳を維持し、患者のニーズに応えながら、日々の健康な生活の実現に貢献するように、又、その人らしく生を全うできるよう援助を行う必要があるということを今回の研修を通して学びました。

改めて日々の業務の中でも、看護倫理を考えさせられる場面が多いことに気付きました。これからは、倫理原則を考えながら援助を行っていきたいと思います。

回復リハビリ病棟　川畑

看護場面で感じるジレンマに対して、看護倫理の研修会が行われました。治療方針や退院支援での方向性などにおいて患者や家族との間でずれが生じることがあり、調整を行いながらジレンマを感じることがありました。最近は、認知症の患者が増え十分な説明を受けられない事例もあることを知り、認知症であっても、自分の意思を伝えることが出来る場合には、思いを傾聴していく必要があると考えます。看護者の倫理綱領が定められていますが、それに沿った行動が出来ていないこともあります。そのため、4つの倫理原則を踏まえて患者一人一人に沿った看護を提供できるように努めていきたいと思います。

ラダーⅣ「意思決定支援」を受講して

講師：4階東病棟師長　別府　晴美

地域包括ケア病棟　王子野

日々の業務を行う中で患者の思いを聴く機会は多くあります。その中でも、病状説明の際の治療方針や退院後の生活など患者や家族を含めた話し合いの場です。抗がん剤・手術・急変時の対応など、患者の思いと家族の思いを確認した上で最良の選択とはなにか‥考えさせられます。

『辛い(苦しい)思いはしたくない』と思う患者、『長生きして欲しい』と思う家族。

最終的には患者自身がどうありたいかを支援していける事が重要だと感じました。

４階東病棟　林

今回の研修で、治療に関して家族の意見をふまえながら患者本人がどうしたいのか、どのように考えているのかを、治療のメリット・デメリットの情報提供をしたうえで確認していくことが大切であると学びました。セル看護がはじまり、患者に寄り添うようになっているが、日々忙しい業務の中でじっくりと患者と話す時間を確保することはなかなか難しい。また、認知症のある患者も多く意思を確認することが難しかったり、コロナ対策で面会が禁止となり家族との接点も少なくなっています。日々あわただしい業務のなかで、限られた時間で意思決定支援を行うにはタイミングが重要だと思います。家族の思いも大切でありますが、一番は本人がどうしたいかの思いなど、いかに情報収集が大切か、患者の好み・ニーズ・価値観を重視し、そのための情報提供と支援を行うことが必要です。意思決定支援１０項目のこころがけを活用し、意思決定支援に携わりたいです。

ラダーⅤ「意思決定支援」を受講して

手術室　小浦

講師：3階東病棟師長　認定看護管理者　久留須　加寿美

今回の研修では、意思決定の支援の仕方を学ぶのではなく、意思決定への関わりが持てるように、普段から意識した関わりを持つことが大事であることを学ぶことが出来ました。患者の今後についての意思確認には、患者自身の思い・考え方が重要でありますが、患者自身だけではなく家族や患者に関わる全ての人の考え方や思いも重要であり、より複雑になってくることも頭に置いておかなくてはいけません。実際の事例をもとに、今後の関わり方について他メンバーとの意見交換を行いました。患者にとっての最善と家族にとっての最善を考慮した支援の方法の難しさを感じることができる研修でした。

救急外来で勤務する中で、状態の悪くなった患者に対応する際に、動揺している家族に関わる中で声かけに困ることがあります。動揺している家族の前から逃げ出すことが無いように、積極的に関われる支援方法の知識の向上、対応力を身につけていきたいと思います。

2020年度　インターンシップ（8/17）開催

教育指導担当 兼 師長室付師長　田口

８月17日（月）第４回目インターンシップへ２名の参加応募を頂き、開催しました。
4月に看護学校に入学したばかりの学生さん、病院見学や、実際の看護師の働きを見るのは初めてであり、一つひとつの事象にテキパキと対応する看護師の姿にとても感動していました。いつか私たちと一緒に働く日がくることを願い、これからの学習や実習等、頑張ってほしいと思います。

ご協力頂きました４階東病棟・４階西病棟の皆様、
ありがとうございました。

マイブーム

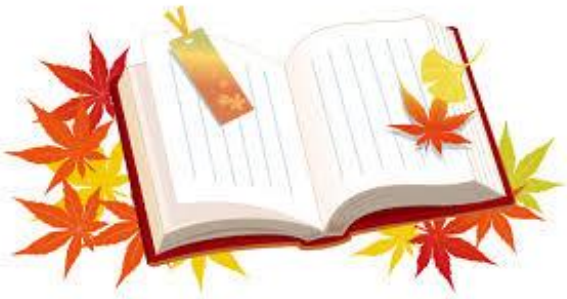
４階東病棟　井川

ある日、師長より「井川さん、ひまわりのマイブーム原稿宜しく。」と言われ、「冗談でしょ。」と思っていた所、原稿依頼文書が届きました。依頼の声を掛けられた時から、何も浮かびません。娘に、「お母さんのマイブームって何だろう？」と聞くと、「韓流ドラマでしょ。」と言われ、「やっぱり」と思いました。【ラストダンスを私と一緒に】という韓流ドラマを見て、あのドキドキワクワクする感じにはまりました。DVDを借りて色々と見ましたが、今ではお金がかかるので、テレビ番組を録画してみています。
韓流ドラマに始まり、今では華流ドラマにどっぷりと!!!!
家族があきれているので、今は家族が寝てからか、平日の休みにゆっくり見て至福の時間を過ごしています。私のストレス解消になるようです。うんうん!!!!
家族や家事が疎かにならない程度に見たいと思います。私の心の薬ですから!!!!

ミニナラティブ

４階西病棟　西野

私が受け持ったA氏は70代女性、小腸穿孔術後4日目の患者でした。前夜は不眠で奇声を発するなど落ち着きがないと情報がありました。朝の挨拶をすると活気なく死にたいと話していました。最初は、疼痛による苦痛により死にたいと訴えているのかと考え確認しましたが、「痛くはない」と一言だけありました。何故死にたいのかと聞くと「自分で自分の事が出来ないから」とあり、その場でなんと答えて良いか分からず頷きながら話を聞くだけでした。元々自立した生活を送っている方で、A氏の立場に立って考えると、緊急入院・手術と急な生活の変化があり、病院生活を行う上で他者の力を借りなければならず、今の自分に悲観的になってしまう気持ちに共感できました。午後の検温後「少し起きてみませんか、昨日はトイレまで歩いていけたみたいだしAさんができる事を少しずつしていきましょう」と伝えると、了承し、デイルームまで移動する事が出来ました。「起きてここまで来ることができましたね。少しずつできる事を一緒にしていきましょう」と伝えると、午後からは死にたいと訴える事はありませんでした。A氏との関りを通して患者のできない事ではなく出来る事に着目する事が大切なのだと改めて学ぶ事ができました。自立に必要な事を患者と一緒に考える事ができる看護師になりたいと思います。



編集後記

いつのまにか夏も過ぎ去り、朝晩少しずつ肌寒くなってきました。感染症予防対策の継続と、体調管理に気を付け、素敵な秋をお過ごしください。

（田口）